

1 開催概要

日 時	令和7年2月18日（火） 14:00～16:00
場 所	オンライン（Zoom）
テーマ	サーキュラーエコノミー（循環経済）の可能性
目 的	あらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値の最大化を目指すサーキュラーエコノミー（循環経済）。その実現に向け、新たな連携とビジネスの可能性について事例を共有し、企業の持続的な発展を後押しする。
内 容	第一部 テーマに沿った情報提供 55分 1. 公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES） 10分 2. アサヒユウアス株式会社 事例紹介 30分 3. 企業の取組紹介 各5分×3者＝15分 ①J&T環境株式会社 ②株式会社カマン ③スパイスキューブ株式会社 第二部 マッチング・意見交換 60分 4. 登壇企業毎にブレイクアウトルームに分かれて意見交換

2 当日の流れ

タイム スタンプ	時間 (分)	内容	備考
14:00	5	開会・あいさつ	SDGs推進グループ
第一部 テーマに沿った情報提供 55分（14:05~15:00）			
14:05	10	サーキュラーエコノミーについて	IGES ※ブレイクアウトルームへの登壇はありません
14:15	30	事例紹介	【A】 アサヒユウアス株式会社
14:45	5	企業の取組紹介①	【B】 J&T環境株式会社
14:50	5	企業の取組紹介②	【C】 株式会社カマン
14:55	5	企業の取組紹介③	【D】 スパイスキューブ株式会社
第二部 マッチング・意見交換 60分（15:00~16:00）			
15:00	60	ブレイクアウトルーム A,B,C,D	
16:00	-	時間になり次第各ルームごと閉会	

3 登壇企業・団体概要

企業・団体名	タイトル・概要
IGES (公財)地球環境戦略研究機関	【タイトル】 循環経済：最近の国際議論と示唆 【概要】 昨年、国連環境計画国際資源パネル（UNEP-IRP）より出版された「世界資源アウトルック2024」などを取り上げながら、グローバルな資源採取・利用や環境政策の動向、循環経済への転換の必然性について概説します。 <u>※ブレイクアウトルームへの登壇はありません</u>
A アサヒユウアス株式会社	【タイトル】 アサヒユウアスの『共創』による課題解決 ～地域・企業・福祉の共創で実現するサーキュラーデザイン～ 【概要】 アサヒユウアス(株)は地域課題の解決、循環型社会形成への貢献を目的とし、地域社会との共創によりサステナビリティ領域に特化した事業に取り組んでいます。今回は、やむなく廃棄されている資源に着目し、地域・企業・福祉の連携により循環に取り組む事例を中心にご紹介させていただきます。

3 登壇企業・団体概要

企業・団体名	タイトル・概要
B J&T環境株式会社	【タイトル】 J&T環境グループの食品リサイクルにおけるサーキュラエコノミーの実現 【概要】 当社はプラをはじめ食品、廃液などのリサイクルで資源循環に貢献する総合資源化リサイクル企業です。横浜・鶴見にある食品リサイクル工場では、食品廃棄物を微生物の力（メタン発酵）でバイオガスを生み出し、再エネ電気を創出。発酵残渣は肥料として利用することで、排出事業者に電気と肥料でできた作物を提供する『ダブルリサイクルループ』を通じ循環型社会の実現を目指します。
C 株式会社カマン	【タイトル】 リユース容器を活用した地域資源循環プラットフォームの構築 【概要】 リユース容器を活用した地域資源循環プラットフォームの構築。Meglooの鎌倉や全国での展開状況、各地でのイベントでの利用、行政との連携、世界の情勢、湘南ベルマーレとの全面リユース対応、今後の課題などを共有し、神奈川で使い捨て容器削減並びに資源循環型社会構築で加速させられたらと思います。
D スパイスクューブ株式会社	【タイトル】 空き不動産をCO₂削減可能な植物工場へリノベーション 【概要】 私たちの提案は、都市部や地方に存在する未活用の空き不動産をCO₂削減型の植物工場へリノベーションすることで、環境課題の解決と地域経済の活性化を目指すものです。植物工場では、LED照明や養液循環システムを使用して無農薬野菜を生産します。さらに、DAC（Direct Air Capture）技術を組み合わせて大気中のCO₂を回収し、栽培に活用することで、環境への負荷を軽減します。